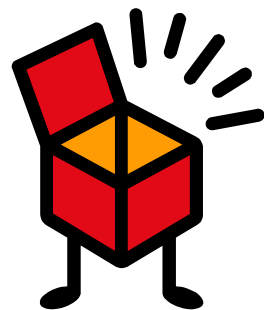


日立金属株式会社  
2011年度第1四半期決算説明



Materials Mag!c

2011年7月28日

 日立金属株式会社  
Hitachi Metals, Ltd.

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

E-Mail : [hmir@hitachi-metals.co.jp](mailto:hmir@hitachi-metals.co.jp)

## 11年度第1四半期(11年4月-6月)

売上高 1,294億円 (10/4Q対比 98%) 営業利益 109億円 (10/4Q対比 +18億円)

### ■需要動向

- 自動車関連分野 : 国内自動車関連は期後半に回復、海外向けはアルミホイールを除き堅調に推移  
エレクトロニクス関連 : 液晶関連は調整が継続、半導体関連はスマートフォン向け需要等が好調に推移  
産業インフラ分野 : 工作機械関連は需要減となったが、配管機器等建築関連は震災復旧対応で需要増加

### ■セグメント別動向(売上高・営業利益)

- ・高級金属製品セグメント : 売上高 569億円(10/4Q対比 100%)、営業利益 63億円(10/4Q対比 +7億円)
- ・電子・情報部品セグメント : 売上高 338億円(10/4Q対比 104%)、営業利益 41億円(10/4Q対比 +19億円)
- ・高級機能部品セグメント : 売上高 388億円(10/4Q対比 91%)、営業利益 21億円(10/4Q対比 △8億円)

### ■海外売上高 580億円(海外売上高比率 44.8%)

北米 129億円(構成比 10.0%) アジア 323億円(構成比 25.0%) 欧州 108億円(構成比 8.3%) その他20億円(構成比 1.5%)

## 11年度上期見込

- ・需要動向は、順調に回復しており、第2四半期も自動車・IT・家電関連とも堅調に推移する見込。  
情報部品関連やアモルファスなどは一時的に調整が続くものの、全体的な稼働は当初前提を上回る見込。
- ・一方、原材料価格の急激な高騰が続いており、販売価格への転嫁を進めていくものの、現段階でこれによる業績への影響を見極めることが難しいことから、公表予想数値を据え置いた。

# 連結業績要約

[単位:億円、年度以外は3ヶ月累計(四半期)、( )は前年同期比]

	2009年度					2010年度					2011年度			
	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	年度 実績	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	年度 実績	1Q 実績	(5月30日発表)		
												上期 予想	下期 予想	年度 予想
売上高	925	1,028	1,129	1,235	4,317	1,269	1,273	1,338	1,322	5,202 (121%)	1,294 (102%) 10/4Q比 98%	2,430	2,900	5,330 (102%)
営業利益	△45	10	71	97	133	120	99	121	91	431 (+298)	109 (△11) 10/4Q比 +18	150	280	430 (△1)
経常利益	△55	△6	64	97	100	107	85	113	71	376 (+276)	100 (△7)	131	261	392 (+16)
(特別損益)	△1	△25	△3	△14	△43	△0	△6	0	△9	△15 (+28)	△0 (±0)	1	△23	△22 (△7)
税前利益	△56	△31	61	83	57	107	79	113	62	361 (+304)	100 (△7)	132	238	370 (+9)
当期純利益	△37	△20	28	48	19	55	48	62	57	222 (+203)	62 (+7)	72	137	209 (△13)
設備投資額	52	34	32	47	165	34	48	49	73	204 (+39)	42 (+8)	144	136	280 (+76)
減価償却費	74	75	78	78	305	67	68	73	76	284 (△21)	66 (△1)	137	149	286 (+2)
研究開発費	24	26	27	29	106	27	30	32	33	122 (+16)	28 (+1)	65	65	130 (+8)

# 2011年度第1四半期業績概要

**売上高 1,294億円 10/4Q対比 98%**

高級金属製品セグメント	569億円 (10/4Q対比 100%)
電子・情報部品セグメント	338億円 (10/4Q対比 104%)
高級機能部品セグメント	388億円 (10/4Q対比 91%)

## ■高級金属製品セグメント

特殊鋼は、工具鋼は海外の自動車関連需要が堅調に推移、国内需要も後半に回復、電子金属材料は液晶関連の調整が続いたものの、半導体関連はスマートフォン需要で堅調に推移。ロールは国内需要の低迷が続いたがアジアを中心とした海外需要が堅調に推移。

## ■電子・情報部品セグメント

マグネットは、FA関連が減少したものの、IT・家電関連が海外向けを中心に増加、自動車関連も震災の影響があったものの想定以上の速さで回復。情報部品は、スマートフォン向け新規採用製品の顧客生産開始遅れの影響や太陽光関連製品の在庫調整が続き低調に推移。

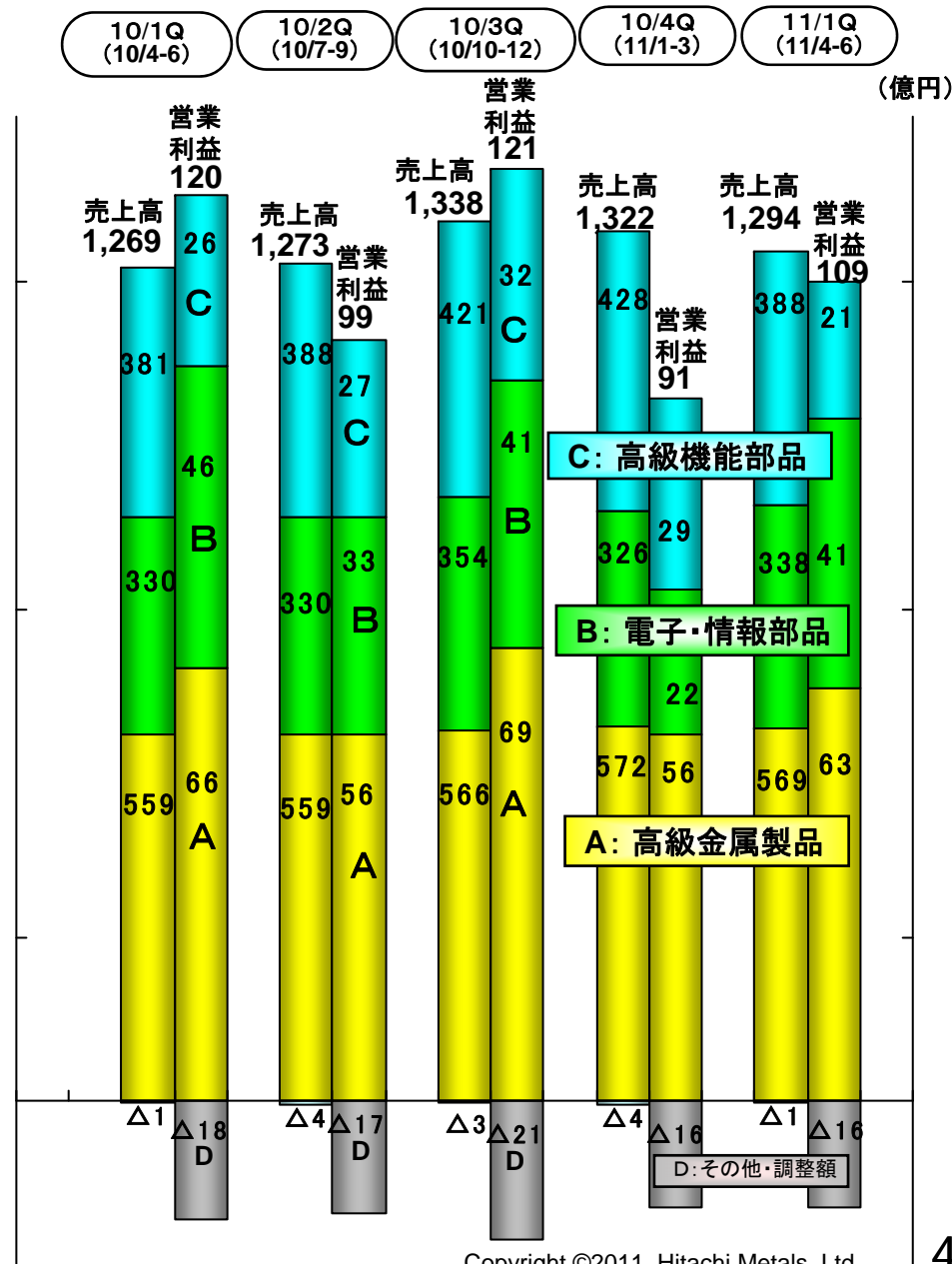
## ■高級機能部品セグメント

自動車用鋳物は、ダクタイル鋳鉄は国内向けは震災の影響を受けたものの、アジアを中心とした海外需要は好調持続、堅調に推移。ハーキュナイトは欧州向け需要が堅調に推移、アルミホイールは震災影響で日米共に減少。配管機器は震災後の仮設住宅需要で増加。

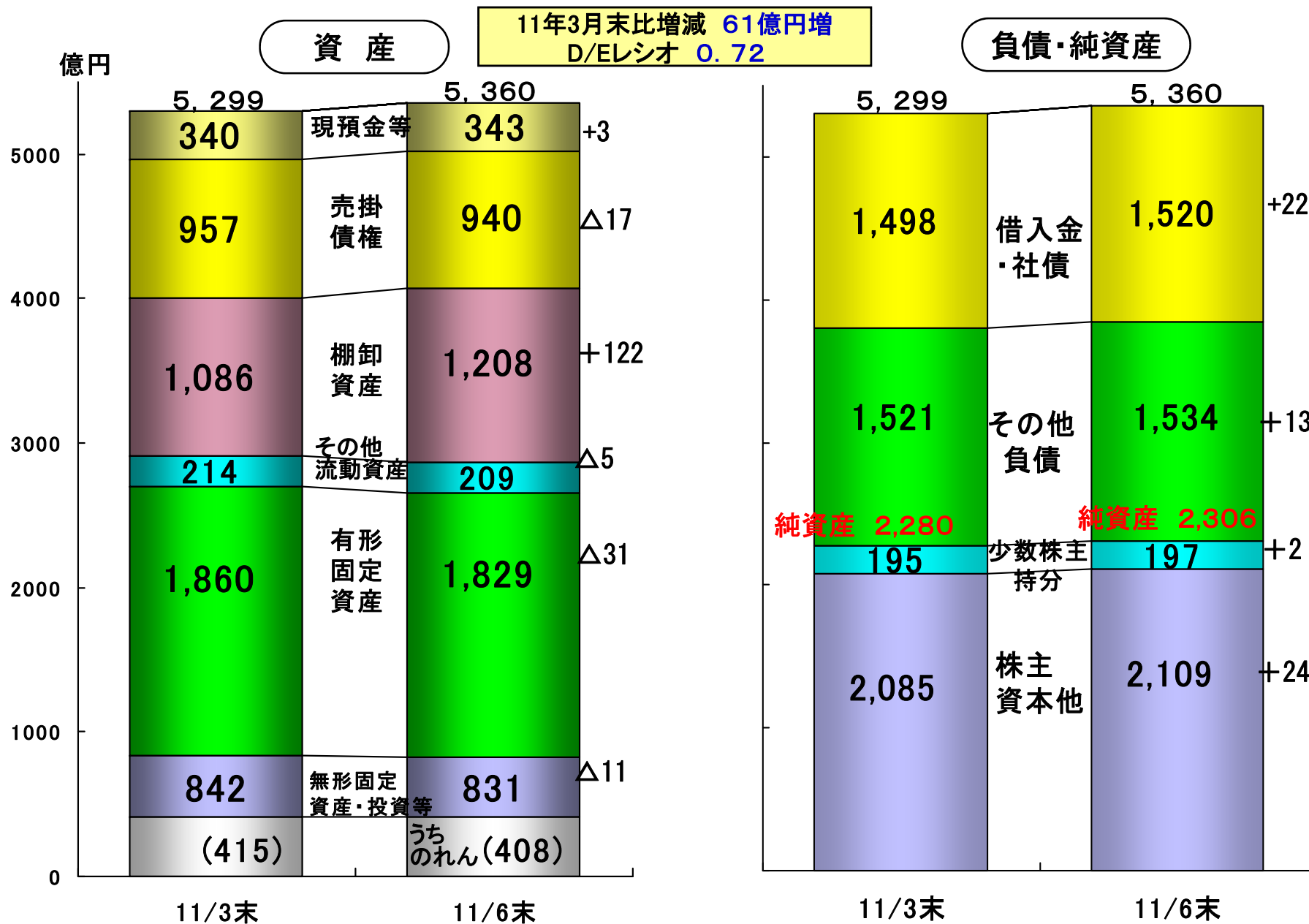
**営業利益 109億円 10/4Q対比 18億円増**

高級金属製品セグメント	63億円 (10/4Q対比 +7億円)
電子・情報部品セグメント	41億円 (10/4Q対比 +19億円)
高級機能部品セグメント	21億円 (10/4Q対比 △8億円)

原材料価格の価格転嫁のタイムラグがあったものの、2Qを勘案した生産前倒しによる操業増効果や国内自動車関連の需要回復、原価低減効果もあり、前期(10/4Q)対比で18億円の増益となった。



# 連結B/S残高



# 連結キャッシュ・フロー

(億円)

科 目	10年度 第1四半期累計	11年度 第1四半期累計
現金及び現金同等物期首残高	436	340
税金等調整前当期利益	107	100
減価償却費	67	66
棚卸資産の増減	△99	△128
その他	71	16
営業キャッシュ・フロー	146	54
設備投資	△34	△42
その他	△13	△2
フリーキャッシュ・フロー	99	10
借入金・社債の増減	△37	27
配当金支払他	△29	△27
ネットキャッシュ・フロー	33	10
為替換算差額他	△22	△5
増加額または減少額合計	10	5
現金及び現金同等物期末残高	447	345

(注) 設備投資は検収ベース

# (参考) セグメント別事業内容

事業セグメント	事業ユニット	主要製品
<b>高級金属製品セグメント</b> [2009年度実績] 売上高 1,879億円 営業利益 65億円 [2010年度実績] 売上高 2,256億円 営業利益 247億円	特殊鋼カンパニー	高級特殊鋼[YSSヤスキハガネ]: 金型・工具用材料、電子金属材料[ディスプレイ関連材料、半導体等パッケージ材料]、産業機器・エネルギー関連材料、剃刃材および刃物材
	ロールカンパニー	各種圧延用ロール(鉄鋼・非鉄・非金属)、射出成形機用部品、構造用セラミックス部品、鉄骨構造部品
	日立ツール株式会社	切削工具
<b>電子・情報部品セグメント</b> [2009年度実績] 売上高 1,059億円 営業利益 71億円 [2010年度実績] 売上高 1,340億円 営業利益 142億円	NEOMAXカンパニー	マグネット(希土類磁石[NEOMAX <sup>®</sup> ]・フェライト磁石等各種磁石およびその応用品)
	情報部品カンパニー	情報通信機器用部品(積層部品、アイソレータ)、IT機器用材料・部品、医療機器用材料・部品、ソフトフェライトコアおよびその応用品、ナノ結晶軟磁性材料[ファインメット <sup>®</sup> ]およびその応用品、アモルファス金属材料[Metglas <sup>®</sup> ]およびその応用品
	軟磁性材料カンパニー	アモルファス金属材料[Metglas <sup>®</sup> ]
<b>高級機能部品セグメント</b> [2009年度実績] 売上高 1,380億円 営業利益 55億円 [2010年度実績] 売上高 1,618億円 営業利益 114億円	自動車機器カンパニー	自動車用高級鋳物部品(排気系耐熱鋳造部品[ハーキュナイト <sup>®</sup> ]、高級ダクタイル鋳鉄製品[HNM <sup>®</sup> ]、アルミホイール[SCUBA <sup>®</sup> ]、その他アルミニウム部品
	配管機器カンパニー	設備配管機器(印各種管継手、ステンレスおよびプラスチック配管機器、冷水供給機器、精密流体制御機器、密閉式膨張用タンク)
	日立機材株式会社	建築部材(内装システム、構造システム、マテハンシステム)

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となるもの主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動